

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エコロジーの思想	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 一博	1年	takeda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい エコロジー思想は、どのような歴史的・学問的背景の中で形成されてきたか、またそれはどのように発展させられてきたか、現代のエコロジー思想にはどのような考え方・潮流があるか、などを概観します。	メッセージ エコロジーの問題を、深く生き方の問題、ライフスタイルや価値観の問題として考えてみたい人は、ぜひ受講してください。
	到達目標 環境問題を単に事実の問題として受け止めるのではなく、生き方の問題、ライフスタイルや価値観の問題、大きく言えば文明の問題、人類存続（サステナビリティ）の問題として、自分の頭で考えることができるようになることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	エコロジーを哲学するとはどういうことか
	2	レポート提出について
		時間外学習の内容
	3	エコロジーの起源
	4	E・ヘッケルの生態学
	5	E・スワローの家政学とエコロジー
	6	R・カーソンの『沈黙の春』
	7	B・コモナーの『なにが環境の危機を招いたか』
	8	エコロジーの法則1. 「すべての生物はつながりあっている」
	9	J・ラブロックのガイア仮説
	10	エコロジーの法則2. 「すべてのものはどこかに行くはずである」
	11	汚染者負担の原則
	12	エコロジーの法則3. 「自然がもっともよく知っている」
	13	生物進化の法則と適応
	14	エコロジーの法則4. 「代価を支払わなければ何もえられない」
	15	エコロジカルな生き方とは何か
	16	まとめ、レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など 武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店、尾関・亀山・武田編『環境思想キーワード』青木書店、尾関・武田編『環境哲学のラディカリズム』学文社など	
	学びの手立て 授業では出席は取りません。私語と居眠りは教室の外でやってもらいます。積極的に意見・質問する人を歓迎します。	
	評価 成績の評価は、レポートのみでおこないます。レポートは、A4用紙2枚以上で、2つ以上の文献（紙媒体）を使いながら、自分なりのテーマ設定を行なって、しっかりと自分の考えを説得的に論述したものを、を基準とします。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「環境の倫理学」、「哲学Ⅱ」、「人間文化課題研究ⅠⅡ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境の倫理学	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 一博	1年	takeda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>環境倫理学という学問は、これまで人間のみが尊厳を持ち、配慮されるべき権利を有すると考えられてきたのに対し、人間以外の動植物や自然物でさえ、生態系の一員として固有の価値を持ち、破壊・汚染・絶滅されてはならない権利を有するのではないかという視点から、新たに現代において提起され登場した学問です。この授業を通じて、自然を守るとはどういうことかを考えてみてください。</p> <p>到達目標 この環境倫理学という学問を通じて学生の皆さんにはぜひ、なぜ動物を虐待してはならないのか、ベジタリアン（菜食主義者）はどういう思想をもっているのか、なぜ仏教では不殺生を説くのか、などを自分の頭で考えることができるようになってほしいと期待しています。そこからはじめて、自然を守るとはどういうことかを、これまでの人間中心主義ー人間の幸福や利益の増進だけが人間にとって重要という考えーを超えて、考えることができるようになると思います。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>環境倫理学はどういう学問か</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>レポートについての諸注意</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>環境問題を倫理学から考えるということ</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>キリスト教の人間観と自然観</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>仏教の人間観と自然観</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>人間中心主義と自然（非人間）中心主義</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>アルド・レオポルドの土地倫理</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>自然の保全か、保存か</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>「自然の権利」</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>「樹木の当事者適格」論</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>動物の権利論・解放論</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>自然の権利訴訟：アメリカ編</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>自然の権利訴訟：日本編</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>世代間倫理</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>環境的正義</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>まとめ、レポート提出</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	環境倫理学はどういう学問か		2	レポートについての諸注意		3	環境問題を倫理学から考えるということ		4	キリスト教の人間観と自然観		5	仏教の人間観と自然観		6	人間中心主義と自然（非人間）中心主義		7	アルド・レオポルドの土地倫理		8	自然の保全か、保存か		9	「自然の権利」		10	「樹木の当事者適格」論		11	動物の権利論・解放論		12	自然の権利訴訟：アメリカ編		13	自然の権利訴訟：日本編		14	世代間倫理		15	環境的正義		16	まとめ、レポート提出		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	環境倫理学はどういう学問か																																																				
2	レポートについての諸注意																																																				
3	環境問題を倫理学から考えるということ																																																				
4	キリスト教の人間観と自然観																																																				
5	仏教の人間観と自然観																																																				
6	人間中心主義と自然（非人間）中心主義																																																				
7	アルド・レオポルドの土地倫理																																																				
8	自然の保全か、保存か																																																				
9	「自然の権利」																																																				
10	「樹木の当事者適格」論																																																				
11	動物の権利論・解放論																																																				
12	自然の権利訴訟：アメリカ編																																																				
13	自然の権利訴訟：日本編																																																				
14	世代間倫理																																																				
15	環境的正義																																																				
16	まとめ、レポート提出																																																				
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは指定しません。授業で紹介する文献を、できるだけ自分で読んでみてください。</p>																																																					
<p>学びの手立て</p> <p>教室での私語は、かならず発言してもらいます。居眠りも教室外で行なってもらいます。授業では積極的に質問・意見を出してください。そして、たくさん本を読んで、自分の頭で考えてください。</p>																																																					
<p>評価</p> <p>成績の評価は、レポートのみでおこないます。レポートは、A4用紙2枚以上に、2つ以上の文献（紙媒体）を使って、自分なりのテーマを設定し（表題に明記すること）、しっかりと自分の頭で考えたことを論述したものを基準とします。</p>																																																					

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「哲学Ⅰ」、「哲学Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」、「エコロジーの思想」など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながら学ぶことができる。また、芸術関係者による特別講義を通して美術館運営や学芸員の役割などを学ぶ。</p>	<p>世界文化遺産のピラミッドから始まり、人類が芸術にどう関わり、どう発展してきたか。また世界で名画と呼ばれる作品の謎や完成度などを紐解いて行く。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる 2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる 3. 特別講義などを通して、美術館や学芸員の役割について説明することができる

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト） 2週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品 3週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品 4週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品 5週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 6週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 7週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 8週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック） 10週目 世界の美術館紹介 11週目 世界の美術館紹介 12週目 特別講義（芸術関係者による講義） 13週目 北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 14週目 北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 15週目 ふりかえり 16週目 最終試験
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>レジメ、資料を配布する</p> <p>1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>日頃から芸術や美術に関心を持ち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。</p>
	<p>評価</p> <p>事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながら学ぶことができる。また、芸術関係者による特別講義を通して美術館運営や学芸員の役割などを学ぶ。</p>	<p>世界文化遺産のピラミッドから始まり、人類が芸術にどう関わり、どう発展してきたか。また世界で名画と呼ばれる作品の謎や完成度などを紐解いて行く。</p>

学びの準備	到達目標
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することが出来る。 2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することが出来る。 3. 特別講義などを通して、美術館や学芸員の役割について説明することが出来る。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト） 2週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品 3週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品 4週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品 5週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 6週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 7週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 8週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック） 10週目 世界の美術館紹介 11週目 世界の美術館紹介 12週目 特別講義（芸術関係者による講義） 13週目 北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 14週目 北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス） 15週目 ふりかえり 16週目 最終試験
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>レジメ、資料を配布する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む） 2. 美術検定
	<p>学びの手立て</p> <p>日頃から芸術や美術に関心を持ち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。</p>
	<p>評価</p> <p>事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術学II	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	芸術学IIでは、芸術学Iで習得した知識を踏まえ、西洋や日本、沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、浮世絵、写真、現代アート）視覚メディアを幅広く学ぶことができる。	ルネサンス以降の西洋美術の発展と社会に与えたインパクトを学び、西洋でも人気が高かった日本美術の傑作浮世絵なども紹介する。

学びの準備	到達目標
	1. 近代史において西洋美術や日本美術の特徴や相互関係を説明することが出来る。 2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（浮世絵、演劇、写真など）の特徴を説明することが出来る。 3. 芸術関係者の特別講義を通して、博物館や美術館の役割を説明することが出来る。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト） 2週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義） 3週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義） 4週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義） 5週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（ロマン主義） 6週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義） 7週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義） 8週目 特別講義（博物館/美術館学芸員） 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック） 10週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義） 11週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義） 12週目 西洋美術と日本の浮世絵 13週目 現代芸術（芸術メディア（写真、現代アートなど）の動向と潮流） 14週目 現代芸術（芸術メディア（写真、現代アートなど）の動向と潮流） 15週目 ふりかえり 16週目 最終試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>レジメ、資料を配布する</p> <p>1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>芸術学I同様、日頃から芸術や美術に関心をもち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術学II	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>芸術学IIでは、芸術学Iで習得した知識を踏まえ、西洋や日本、沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、浮世絵、写真、現代アート）視覚メディアを幅広く学ぶことができる。</p>	<p>ルネサンス以降の西洋美術の発展と社会に与えたインパクトを学び、西洋でも人気が高かった日本美術の傑作浮世絵なども紹介する。</p>
到達目標	<p>1. 近代史において西洋美術や日本美術の特徴や相互関係を説明することが出来る。 2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（浮世絵、演劇、写真など）の特徴を説明することが出来る。 3. 芸術関係者の特別講義を通して、博物館や美術館の役割を説明することが出来る。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト） 2週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義） 3週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義） 4週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義） 5週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（ロマン主義） 6週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義） 7週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義） 8週目 特別講義（博物館/美術館学芸員） 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック） 10週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義） 11週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義） 12週目 西洋美術と日本の浮世絵 13週目 現代芸術（芸術メディア（写真、現代アートなど）の動向と潮流） 14週目 現代芸術（芸術メディア（写真、現代アートなど）の動向と潮流） 15週目 ふりかえり 16週目 最終試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>レジメ、資料を配布する</p> <p>1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む） 2. 美術検定</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>芸術学I同様、日頃から芸術や美術に関心をもち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。</p>
評価	<p>事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

人間や文化のあり方をさまざまな形で（原理的に、歴史的に、現代社会との関わりで、感性を手がかりに）考察する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーション論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 尚、初回欠席者は登録できない。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、前半において、私たちのコミュニケーションを円滑に機能させている「敬語」について具体的な例を挙げながら考察する。後半においては、人間のコミュニケーションのあり方は他の動物とどのように異なるのか、人間が文化を持つに至った言葉とはどのような特徴を持つものか、といった思想的な問題を論じていきたい。</p>	<p>本講義は、前半と後半に分かれる。前半では、人間のコミュニケーションにおける最も高度な技術である「敬語」について日本語の分析を通じて論じる。いくつかには琉球における事例も挙げられるであろう。後半は、高度なコミュニケーションを人間はどのようにして獲得するに至ったかについて考察する。</p>
到達目標	日本語や琉球語の敬語について理解できる（前半）。人間のコミュニケーションのあり方について理解できる（後半）。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	登録確認・講義概要の把握
	2	敬語とは何か	敬語概略の復習・練習問題
	3	尊敬語	尊敬語の復習・練習問題
	4	謙譲語 I	謙譲語 I の復習・練習問題
	5	謙譲語 II	謙譲語 II の復習・練習問題
	6	丁寧語	丁寧語の復習・練習問題
	7	美化語	美化語の復習・練習問題
8	中間試験	中間試験の復習	
9	コミュニケーションの定義と分類	講義内容の復習	
10	人間のコミュニケーションは他の動物とどのように異なるのか	講義内容の復習	
11	人間のコミュニケーションの発達～他のホモ属、類人猿との比較～	講義内容の復習	
12	「鳴き声」か「音声」か～言語の二重性～	講義内容の復習	
13	言語の構造～音声学と音韻論～	講義内容の復習	
14	ノンヴァーバル・コミュニケーション	講義内容の復習	
15	期末試験	期末試験の復習	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。 敬語の参考図書としては、菊地康人『敬語』（講談社学術文庫）。</p>		
学びの手立て	<p>初回欠席者は登録できない（自動的に抽選洩れとなる）。 3分の1を超える欠席者は、原則として単位を認めない。 出席確認のための小テストを行う。</p>		
評価	<p>中間試験・期末試験・出席点・レポート課題・小テストなどで評価する。 ただし、レポート課題は、どうしても避けられない理由で試験を受けられなかった者に対する措置である。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	文化人類学 I・II、生物学 I・II、グローバルコミュニケーション論、比較文化論、認知言語学、多文化共生論など。

※ポリシーとの関連性

人間や文化のあり方をさまざまな形で（原理的に、歴史的に、現代社会との関わりで、感性を手がかりに）考察する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーション論	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 尚、初回欠席者は登録できない。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、前半において、私たちのコミュニケーションを円滑に機能させている「敬語」について具体的な例を挙げながら考察する。後半においては、人間のコミュニケーションのあり方は他の動物とどのように異なるのか、人間が文化を持つに至った言葉とはどのような特徴を持つものか、といった思想的な問題を論じていきたい。	本講義は、前半と後半に分かれる。前半では、人間のコミュニケーションにおける最も高度な技術である「敬語」について日本語の分析を通じて論じる。いくつかには琉球における事例も挙げられるであろう。後半は、高度なコミュニケーションを人間はどのようにして獲得するに至ったかについて考察する。
到達目標	日本語や琉球語の敬語について理解できる（前半）。人間のコミュニケーションのあり方について理解できる（後半）。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	登録確認・講義概要の把握
	2	敬語とは何か	敬語概略の復習・練習問題
	3	尊敬語	尊敬語の復習・練習問題
	4	謙譲語 I	謙譲語 I の復習・練習問題
	5	謙譲語 II	謙譲語 II の復習・練習問題
	6	丁寧語	丁寧語の復習・練習問題
	7	美化語	美化語の復習・練習問題
8	中間試験	中間試験の復習	
9	コミュニケーションの定義と分類	講義内容の復習	
10	人間のコミュニケーションは他の動物とどのように異なるのか	講義内容の復習	
11	人間のコミュニケーションの発達～他のホモ属、類人猿との比較～	講義内容の復習	
12	「鳴き声」か「音声」か～言語の二重性～	講義内容の復習	
13	言語の構造～音声学と音韻論～	講義内容の復習	
14	ノンヴァーバル・コミュニケーション	講義内容の復習	
15	期末試験	期末試験の復習	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など	適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。敬語の参考図書としては、菊地康人『敬語』（講談社学術文庫）。	
	学びの手立て	初回欠席者は登録できない（自動的に抽選洩れとなる）。3分の1を超える欠席者は、原則として単位を認めない。出席確認のための小テストを行う。	
	評価	中間試験・期末試験・出席点・レポート課題・小テストなどで評価する。ただし、レポート課題は、どうしても避けられない理由で試験を受けられなかった者に対する措置である。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化人類学 I・II、生物学 I・II、グローバルコミュニケーション論、比較文化論、認知言語学、多文化共生論など。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1 年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人が生きていく中で、自分や他者の心・行動を理解することは大切なことである。そこでは誰もが、いわば心理学者になっているとも言えるが、その理解の仕方は多くの場合、個人的な経験則や直感に基づく主観的なものになりがちである。本講義では、科学的・客観的な人間理解を目指す心理学という学問分野について、基本的な知識と考え方を身につけることをねらいとしている。</p>	<p>初回講義に必ず出席してください。仮登録者であっても、初回講義に欠席した場合は原則的に履修を取り消します。初回講義での説明を受けて、本講義の内容や進め方などを理解した上で、履修登録を残すかどうかを決めて下さい。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような性質や特徴を持った学問分野であるかが適正に理解できるようになる。 ②人間の知覚、学習、記憶、脳、認知、感情についての基本的な知識を身につけることができる。 ③日常の不思議な心理現象のいくつか（物忘れ、ハマる、やる気を無くす等）を、心理学の理論や概念を用いて説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・諸注意等の説明（※出席必須）	シラバスの理解、次回講義の課題
	2	心理学とは？ ～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～：心理学のイメージとは？	次回講義内容の予習と今回の復習
	3	人は世界をどのようにとらえるのか？ ～知覚の心理学(1)～：心霊現象、図と地	同上
	4	人は世界をどのようにとらえるのか？ ～知覚の心理学(2)～：視覚と聴覚	同上
	5	人はどのようにして学ぶのか？ ～学習の心理学(1)～：縄張り行動、条件付け学習	同上
	6	人はどのようにして学ぶのか？ ～学習の心理学(2)～：洞察学習、技能学習、社会的学習	同上
	7	人の記憶とはどのようなものか？ ～記憶の心理学(1)～：覚えること・思い出すこと	同上
	8	人の記憶とはどのようなものか？ ～記憶の心理学(2)～：記憶を促進・妨害する事柄	同上
	9	脳と心はどのような関係にあるのか？ ～脳と心(1)～：心の働きと脳の構造・機能、脳トレ	同上
	10	脳と心はどのような関係にあるのか？ ～脳と心(2)～：脳損傷や薬物の影響を中心に	同上
	11	わかるとは何か？ ～認知の心理学(1)～：理解すること、ピアジェの認知発達論、メタ認知	同上
	12	わかるとは何か？ ～認知の心理学(2)～：考えること、思考、推論、予知夢現象の心理学	同上
	13	何が人を動かすのか？ ～気分と感情の心理学～：認知と感情の関係、表情(情動)の認知	同上
	14	何が人を動かすのか？ ～モチベーションの心理学～：“ほめること”と“やる気”の関係	同上
15	全講義内容の振り返り・まとめ & 学期末課題の案内	全講義内容の振り返りとまとめ	
16	学期末試験(予定)		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進めていきます。 ・講義の中で、または配付資料を通して毎回、関連文献を紹介していきます。映画やマンガなども紹介します。紹介された文献や資料を、各自の自学自習に役立ててください。
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生に迷惑を及ぼす行為（遅刻や途中入退室、私語等）は厳に慎んで下さい。 ・何となく授業に出席しているというだけでは、単位の修得が困難です。真剣に、能動的に学んで下さい。 ・学びを深めるために、疑問に思ったこと等は時間外学習で自発的に調べたり、考えたりしてください。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、授業への参加態度45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 ・授業への参加態度は主に、毎回提出のリアクションペーパーの質と量、不定期の課題等により評価します。 ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅱを履修すると、Ⅰで学んだ知識とⅡの関わりが見えるようになり、人間や人間の心理・行動についての理解がより深められるでしょう。その他、心理カウンセリング専攻が提供する専門科目を履修すると、心理学の全体像がより見えてきたり、最新の研究動向を知ることができると思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための共通科目」の1つである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1 年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人が生きていく中で、自分や他者の心・行動を理解することは大切なことである。そこでは誰もが、いわば心理学者になっているとも言えるが、その理解の仕方は多くの場合、個人的な経験則や直感に基づく主観的なものになりがちである。本講義では、科学的・客観的な人間理解を目指す心理学という学問分野について、基本的な知識と考え方を身につけることをねらいとしている。</p> <p>到達目標</p> <p>①心理学という学問が、どのような性質や特徴を持った学問分野であるかが適正に理解できるようになる。 ②人間の知覚、学習、記憶、脳、認知、感情についての基本的な知識を身につけることができる。 ③日常の不思議な心理現象のいくつか（物忘れ、ハマる、やる気を無くす等）を、心理学の理論や概念を用いて説明できる。</p>	<p>初回講義に必ず出席してください。仮登録者であっても、初回講義に欠席した場合は原則的に履修を取り消します。初回講義での説明を受けて、本講義の内容や進め方などを理解した上で、履修登録を残すかどうかを決めて下さい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・諸注意等の説明（※出席必須）	シラバスの理解、次回講義の課題
	2	心理学とは？ ～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～：心理学のイメージとは？	次回講義内容の予習と今回の復習
	3	人は世界をどのようにとらえるのか？ ～知覚の心理学(1)～：心霊現象、図と地	同上
	4	人は世界をどのようにとらえるのか？ ～知覚の心理学(2)～：視覚と聴覚	同上
	5	人はどのようにして学ぶのか？ ～学習の心理学(1)～：縄張り行動、条件付け学習	同上
	6	人はどのようにして学ぶのか？ ～学習の心理学(2)～：洞察学習、技能学習、社会的学習	同上
	7	人の記憶とはどのようなものか？ ～記憶の心理学(1)～：覚えること・思い出すこと	同上
	8	人の記憶とはどのようなものか？ ～記憶の心理学(2)～：記憶を促進・妨害する事柄	同上
	9	脳と心はどのような関係にあるのか？ ～脳と心(1)～：心の働きと脳の構造・機能、脳トレ	同上
	10	脳と心はどのような関係にあるのか？ ～脳と心(2)～：脳損傷や薬物の影響を中心に	同上
	11	わかるとは何か？ ～認知の心理学(1)～：理解すること、ピアジェの認知発達論、メタ認知	同上
	12	わかるとは何か？ ～認知の心理学(2)～：考えること、思考、推論、予知夢現象の心理学	同上
	13	何が人を動かすのか？ ～気分と感情の心理学～：認知と感情の関係、表情(情動)の認知	同上
	14	何が人を動かすのか？ ～モチベーションの心理学～：“ほめること”と“やる気”の関係	同上
15	全講義内容の振り返り・まとめ & 学期末課題の案内	全講義内容の振り返りとまとめ	
16	学期末試験(予定)		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進めていきます。 ・講義の中で、または配付資料を通して毎回、関連文献を紹介していきます。映画やマンガなども紹介します。紹介された文献や資料を、各自の自学自習に役立ててください。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生に迷惑を及ぼす行為（遅刻や途中入退室、私語等）は厳に慎んで下さい。 ・何となく授業に出席しているというだけでは、単位の修得が困難です。真剣に、能動的に学んで下さい。 ・学びを深めるために、疑問に思ったこと等は時間外学習で自発的に調べたり、考えたりしてください。
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、授業への参加態度45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 ・授業への参加態度は主に、毎回提出のリアクションペーパーの質と量、不定期の課題等により評価します。 ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅱを履修すると、Ⅰで学んだ知識とⅡの関わりが見えるようになり、人間や人間の心理・行動についての理解がより深められるでしょう。その他、心理カウンセリング専攻が提供する専門科目を履修すると、心理学の全体像がより見えてきたり、最新の研究動向を知ることができると思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための共通科目」の1つである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人の心や行動について科学的・客観的な視座から学ぶことを通して、自己・他者・社会について多面的な理解ができるようになることを目指します。本講義では、なるべく日常生活と関わりの深い心理学的事象（パーソナリティ、心の成長と発達、人間関係、心のトラブルなど）を取り上げ、それらの事象が、どのような理論や方法によって心理学的に研究され、説明されているのかを概説します。</p>	<p>初回講義に必ず出席してください。仮登録者であっても、初回講義に欠席した場合は原則的に履修を取り消します。初回講義での説明を受けて、本講義の内容や進め方などを理解した上で、履修登録を残すかどうかを決めて下さい。また、重要な連絡事項の伝達をすることがあるので、沖国ポータル（メールや掲示）を必ず確認するようにしてください。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような性質や特徴を持った学問分野であるかが適正に理解できるようになる。 ②人間の性格、心や体の発達、他者や集団の影響、カウンセリングと心の病などに関する基本的な知識を身につけることができる。 ③日常生活の中で話題になることが多い心理現象のいくつか（血液型と性格の関係、第一印象、心の病など）を、科学的な心理学の知見をもとに理解し、人に説明することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・諸注意等の説明（※出席必須）	シラバスの理解、次回講義の課題
	2	心理学のイメージと実際～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～	次回講義内容の予習と今回の復習
	3	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(1)～：血液型と性格・類型論・特性論など	同上
	4	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(2)～：性格テスト・人格形成・人格障がい	同上
	5	人が成長・発達するとは、どういうことか？～乳幼児期の発達心理学～	同上
	6	人が成長・発達するとは、どういうことか？～児童期・思春期・青年期の発達心理学～	同上
	7	人が成長・発達するとは、どういうことか？～成人期・老年期の発達心理学～	同上
	8	自分とは何か？～社会心理学(1)～：自分を知ること、自分を他者に知らせる(見せる)こと	同上
	9	人はどのようにして他者を理解し、他者と関わるのか？～社会心理学(2)～：対人認知	同上
	10	人は、他者・社会からどのような影響を受けるのか？～社会心理学(3)～：社会的影響・説得	同上
	11	心の不調・トラブル～臨床心理学、臨床心理士の資格と仕事とは？～	同上
	12	心の不調・トラブル～心の病・障がいとはどのようなものか？～：うつ病・統合失調症	同上
	13	心の不調・トラブル～心理療法・カウンセリングとは、一体何をするのか？～：認知行動療法	同上
	14	心理学の知見や考え方は実生活に役立つのか？～心理学の実践と応用～	同上
15	全講義内容のまとめ & 学期末課題の案内	全講義内容の振り返りとまとめ	
16	学期末試験(予定)		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進めていきます。 ・講義の中で、または配付資料を通して毎回、関連文献を紹介していきます。映画やマンガなども紹介します。紹介された文献や資料を、各自の自学自習に役立ててください。
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生に迷惑を及ぼす行為（遅刻や途中入退室、私語等）は厳に慎んで下さい。 ・何となく授業に出席しているというだけでは、単位の修得が困難です。真剣に、能動的に学んで下さい。 ・学びを深めるために、疑問に思ったこと等は時間外学習で自発的に調べたり、考えたりしてください。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、授業への参加態度45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 ・授業への参加態度は主に、毎回提出のリアクションペーパーの質と量、不定期の課題等により評価します。 ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅰを履修すると、Ⅱで学んだ心理現象の背景にどのような心理学的・脳科学的メカニズムがあるのかが見えるようになり、人間や人間の心理・行動についての理解がより深められるでしょう。その他、心理カウンセリング専攻が提供する専門科目を履修すると、心理学の全体像がより見えてきたり、最新の研究動向を知ることができると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学Ⅱ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人の心や行動について科学的・客観的な視座から学ぶことを通じて、自己・他者・社会について多面的な理解ができるようになることを目指します。本講義では、なるべく日常生活と関わりの深い心理学的事象（パーソナリティ、心の成長と発達、人間関係、心のトラブルなど）を取り上げ、それらの事象が、どのような理論や方法によって心理学的に研究され、説明されているのかを概説します。</p>	<p>初回講義に必ず出席してください。仮登録者であっても、初回講義に欠席した場合は原則的に履修を取り消します。初回講義での説明を受けて、本講義の内容や進め方などを理解した上で、履修登録を残すかどうかを決めて下さい。また、重要な連絡事項の伝達をすることがあるので、沖国ポータル（メールや掲示）を必ず確認するようにしてください。</p>
到達目標	<p>①心理学という学問が、どのような性質や特徴を持った学問分野であるかが適正に理解できるようになる。 ②人間の性格、心や体の発達、他者や集団の影響、カウンセリングと心の病などに関する基本的な知識を身につけることができる。 ③日常生活の中で話題になることが多い心理現象のいくつか（血液型と性格の関係、第一印象、心の病など）を、科学的な心理学の知見をもとに理解し、人に説明することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・諸注意等の説明（※出席必須）	シラバスの理解、次回講義の課題
	2	心理学のイメージと実際～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～	次回講義内容の予習と今回の復習
	3	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(1)～：血液型と性格・類型論・特性論など	同上
	4	人の性格とは何か？～パーソナリティ心理学(2)～：性格テスト・人格形成・人格障がい	同上
	5	人が成長・発達するとは、どういうことか？～乳幼児期の発達心理学～	同上
	6	人が成長・発達するとは、どういうことか？～児童期・思春期・青年期の発達心理学～	同上
	7	人が成長・発達するとは、どういうことか？～成人期・老年期の発達心理学～	同上
	8	自分とは何か？～社会心理学(1)～：自分を知ること、自分を他者に知らせる(見せる)こと	同上
	9	人はどのようにして他者を理解し、他者と関わるのか？～社会心理学(2)～：対人認知	同上
	10	人は、他者・社会からどのような影響を受けるのか？～社会心理学(3)～：社会的影響・説得	同上
	11	心の不調・トラブル～臨床心理学、臨床心理士の資格と仕事とは？～	同上
	12	心の不調・トラブル～心の病・障がいとはどのようなものか？～：うつ病・統合失調症	同上
	13	心の不調・トラブル～心理療法・カウンセリングとは、一体何をするのか？～：認知行動療法	同上
14	心理学の知見や考え方は実生活に役立つのか？～心理学の実践と応用～	同上	
15	全講義内容のまとめ & 学期末課題の案内	全講義内容の振り返りとまとめ	
16	学期末試験(予定)		
テキスト・参考文献・資料など	<p>・教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進めていきます。 ・講義の中で、または配付資料を通して毎回、関連文献を紹介していきます。映画やマンガなども紹介します。紹介された文献や資料を、各自の自学自習に役立ててください。</p>		
学びの手立て	<p>・他の受講生に迷惑を及ぼす行為（遅刻や途中入退室、私語等）は厳に慎んで下さい。 ・何となく授業に出席しているというだけでは、単位の修得が困難です。真剣に、能動的に学んで下さい。 ・学びを深めるために、疑問に思ったこと等は時間外学習で自発的に調べたり、考えたりしてください。</p>		
評価	<p>・成績評価は、授業への参加態度45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 ・授業への参加態度は主に、毎回提出のリアクションペーパーの質と量、不定期の課題等により評価します。 ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを一切不可」として論述式の試験を行います。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅰを履修すると、Ⅱで学んだ心理現象の背景にどのような心理学的・脳科学的メカニズムがあるのかが見えるようになり、人間や人間の心理・行動についての理解がより深められるでしょう。その他、心理カウンセリング専攻が提供する専門科目を履修すると、心理学の全体像がより見えてきたり、最新の研究動向を知ることができると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 女性と文化	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -栗国 恭子	前期	水2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。その他学内E-mail	

学びの準備	ねらい 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究の展開を確認していく。ジェンダーに関わる文化要素の事例確認することで、社会における〈男〉と〈女〉のあり様は、生物学的な差異に基づきながら社会や時代によって異なり、かつ多様であることを学ぶ。沖縄社会のジェンダーのテーマに触れる。	メッセージ この講義をきっかけに、男らしさや女らしさや性の役割は時代や文化によって異なることを理解する視点（ヒント）を得て、自分自身が捕えている持つ〈男〉とは？〈女〉とは？を再考してください。
	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。	

学びの準備	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ジェンダーとは何か 文化的性差の概念を理解する	〈性差〉について調べる
	2	女性研究の流れ① 女性と文化・ジェンダー研究史の議論の流れを確認する	ジェンダー研究文献①②を確認
	3	女性研究の流れ② 沖縄の女性と文化研究のあり様を確認する	沖縄の女性研究文献③を確認する
	4	婚姻と文化① 世界の民族社会における婚姻制度の多様性を確認する	世界の婚姻制度について調べる
	5	婚姻と文化② 変化した現状の性・婚姻・出産のあり様と課題を確認する	性・生殖革命について調べる
	6	生む性 〈母性〉・〈子供〉の発見、多様な概念	ルソーの著作や参考文献⑤⑥
	7	文化に管理される身体① 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観	〈不浄〉〈ケガレ〉の意味を調べる
	8	文化に管理される身体② 両義性の身体 ネパールのクマリ信仰を事例に	ネパールの信仰について調べる
	9	文化に管理される身体③ 〈ケガレ〉無き女性・沖縄の民俗信仰と女性たち	沖縄の民俗信仰の特徴を調べる
	10	文化に管理される身体④ インドのダウリーやアフリカのFGM、身体加工	身体と人権の問題を考える
	11	沖縄の女性と文化① 現代の婚姻と伝統文化（離婚・家督相続・ユタ）問題	『沖縄県史 女性史編』を読む
	12	沖縄の女性と文化② 王府時代の多様な婚姻のあり様	『沖縄県史 女性史編』を読む
	13	沖縄の女性と近代 異なる文化接触と評価 風俗改良（風土・身体・戦争）	『沖縄県史 女性史編』を読む
	14	沖縄の女性表象① 戦時下の（否定されながら多用される〈南国の女性像〉）	戦前の沖縄のポスター雑誌を確認
	15	沖縄の女性表象② 民藝一行が撮り、撮らなかった1940年代の〈沖縄の女性〉	柳宗悦、坂本万七の仕事を確認
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマによってはビデオ映像などを使用する。 ①アードナーほか『男が文化で女は自然か？一性差の文化人類学』（晶文社、1987年）②マーガレット・ミード『男性と女性』（東京創元社、1981年）③伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』④田中雅一ほか編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社、2005年）⑤バタンテール『母性という神話』（ちくま文庫）⑥フリップ・アリエス『子供の誕生』（みすず書房）⑦『沖縄県史女性史編』（2016）ほか講義でも重要な参考文献（など）紹介
-------	--

学びの実践	学びの手立て 「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問を積極的にしてもらいたい。
-------	--

学びの実践	評価 「評価方法・割合」期末試験80%、講義感想レポート10%・平常点10% 「評価基準」期末試験においては、ジェンダー関係の情報理解だけではなく、文化を通して捉える女性のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身のジェンダー観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目 多様な人間の社会や文化を扱う「文化人類学」や女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、文化を通した女性への理解が深まる。 (2)次のステージ ジェンダーについて人文・社会科学科目だけではなく文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名 女性と文化	期別 後期	曜日・時限 水2	単位 2
	担当者 -栗国 恭子	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。その他学内E-mail	

学びの準備	ねらい 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究の展開を確認していく。ジェンダーに関わる文化要素の事例確認することで、社会における〈男〉と〈女〉のあり様は、生物学的な差異に基づきながら社会や時代によって異なり、かつ多様であることを学ぶ。沖縄社会のジェンダーのテーマに触れる。	メッセージ この講義をきっかけに、男らしさや女らしさや性の役割は時代や文化によって異なることを理解する視点（ヒント）を得て、自分自身が捕えている持つ〈男〉とは？〈女〉とは？を再考してください。
	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。	

学びの準備	到達目標 社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割）であるジェンダー概念の理解と、女性（ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（1-3週目）。〈産む性〉についても社会システムである「婚姻」や〈母性〉概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11~15週）。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ジェンダーとは何か 文化的性差の概念を理解する
	2	女性研究の流れ① 女性と文化・ジェンダー研究史の議論の流れを確認する
	3	女性研究の流れ② 沖縄の女性と文化研究のあり様を確認する
	4	婚姻と文化① 世界の民族社会における婚姻制度の多様性を確認する
	5	婚姻と文化② 変化した現状の性・婚姻・出産のあり様と課題を確認する
	6	生む性 〈母性〉・〈子供〉の発見、多様な概念
	7	文化に管理される身体① 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観
	8	文化に管理される身体② 〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観
	9	文化に管理される身体③ 〈ケガレ〉無き女性・沖縄の民俗信仰と女性たち
	10	文化に管理される身体④ インドのダウリーやアフリカのFGM、身体加工
	11	沖縄の女性と文化① 現代の婚姻と伝統文化（離婚・家督相続・ユタ）問題
	12	沖縄の女性と文化② 王府時代の多様な婚姻のあり様
	13	沖縄の女性と近代 異なる文化接触と評価 風俗改良（風土・身体・戦争）
	14	沖縄の女性表象① 戦時下の（否定されながら多用される〈南国の女性像〉）
	15	沖縄の女性表象② 民藝一行が撮り、撮らなかった1940年代の〈沖縄の女性〉
16	テスト	
		時間外学習の内容
		〈性差〉について調べる
		ジェンダー研究文献①②を確認
		沖縄の女性研究文献③を確認する
		世界の婚姻制度について調べる
		性・生殖革命について調べる
		ルソーの著作や参考文献⑤⑥
		〈不浄〉〈ケガレ〉の意味を調べる
		ネパールの信仰について調べる
		沖縄の民俗信仰の特徴を調べる
		身体と人権の問題を考える
		『沖縄県史 女性史編』を読む
		『沖縄県史 女性史編』を読む
		『沖縄県史 女性史編』を読む
		戦前の沖縄のポスター雑誌を確認
		柳宗悦、坂本万七の仕事を確認

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマによってはビデオ映像などを使用する。 〈参考文献〉①アードナーほか『男が文化で女は自然か？一性差の文化人類学』（晶文社、1987年）②マーガレット・ミード『男性と女性』（東京創元社、1981年）③伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』④田中雅一ほか編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社、2005年）⑤バタンテール『母性という神話』（ちくま文庫）⑥フリップ・アリエス『子供の誕生』（みすず書房）⑦『沖縄県史女性史編』（2016）ほか講義でも重要な参考文献など紹介
-------	--

学びの実践	学びの手立て 「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問を積極的にしてもらいたい。
-------	--

学びの実践	評価 「評価方法・割合」期末試験80%、講義感想レポート10%・平常点10% 「評価基準」期末試験においては、ジェンダー関係の情報理解だけではなく、文化を通して捉える女性のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身のジェンダー観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目 多様な人間の社会や文化を扱う「文化人類学」や女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、文化を通じた女性への理解が深まる。 (2)次のステージ ジェンダーについて人文・社会科学科目だけではなく文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 人間や文化のありかたを、さまざまな角度から多面的に学んでいきます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 女性と歴史	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -宮城 晴美	前期	土 4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後か、自宅メール (h-unai@nifty.com) に連絡ください。	

学びの準備	ねらい この授業では、女性をとりまく世界的な動きをにらみながら、沖縄の女性たちにどのような影響を与えたか、そして時代によって女性たちの“主体性”がどう変化し変化させられたか、私たちの身近におこる「人権問題」を含めてジェンダーの視点で考察していきます。その前提として、沖縄女性史の概要についてもお話しします。	メッセージ 本講義では、特定のテキストは使わず、毎回、パワーポイントの画像、映像を使ったビジュアルな講義を進めていきます。世界の女性に負けない、私たちの母・祖母時代の、沖縄の女性たちのパワフルな活動について紹介していきます。
	到達目標 1. 現在の女性をとりまく環境がどのようなプロセスで成り立ってきたか、ジェンダーの視点で考える力を身につけることができるようにする。 2. 上記のなかで、もしジェンダー偏見に気づいたらそれを排除し、他者の意見を傾聴することができるようにする。 3. 就職したとき、あるいは家庭生活を営むなかで性別による問題に直面したとき、その解決にむけた「アイテム」を講義の中から見出すことができるようにする。 4. ジェンダー平等を学ぶことで、沖縄社会の文化的ひずみ（たとえばトートーメー問題を）を正し、差別のない社会づくりに貢献できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション（本授業のねらいと全体像の説明）
	2	琉球王国時代の政治と女性の地位
	3	ジェンダーと性一公娼制度下の辻遊廓
	4	【映像】娼婦から画家へ（Born Again—画家・正子・R・サマーズの人生）
	5	近代日本の国家建設
	6	家父長制の確立と「良妻賢母」教育
	7	第一波フェミニズム思想—世界的潮流の中で
	8	「内なる日本化」と抗する女たち
	9	軍事主義とジェンダー
	10	【映像】ドキュメント沖縄戦
	11	沖縄の日本軍「慰安婦」と「集団自決」の論理
	12	女たちの政治参加
	13	日米の政治のはざまで一軍隊の構造的暴力とジェンダー
	14	沖縄のフェミニズム運動—立ち上がった女たち
	15	「トートーメー（位牌）」継承問題とジェンダー
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバスを事前に読んでくること
		参考文献①第6章
		参考文献②第VIII章
		〃
		参考文献④II部
		プリントを事前に読んでくること
		〃
		〃
		〃
		身近の戦争体験を聞く
		プリントを事前に読んでくること
		参考文献③第三章
		プリントを事前に読んでくること
		〃
		〃

テキスト・参考文献・資料など
 テキストはパワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配付します。
 【参考文献】①那覇市総務部女性室『なは・女のあしあと 那覇女性史（前近代編）』琉球新報社、2001 ②那覇市総務部女性室・那覇女性史編集委員会編『なは・女のあしあと 那覇女性史（近代編）』ドメス出版、1998 ③那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（戦後編）』琉球新報社、2001 ④沖縄県教育委員会文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編 第8巻 女性史』沖縄県教育委員会、2016 ⑤その他、随時紹介します。

学びの手立て
 ①「履修の心構え」
 ・出席を重視します。やむを得ず遅刻した場合は講義終了後に申し出、欠席した場合は、必ず届けを出してください。 ・欠席した日のプリントは、必ず要求して受け取ってください。 ・やむを得ず途中退席するときは授業前に届け出、リアクションペーパーを自身で提出してください。
 ②「学びを深めるために」
 ・プリントは前の週に配付します。事前に読んでくること。講義には忘れずに持参し、授業の内容をメモして復習に役立ててください。 ・「時間外学習の内容」を参考に、提示した文献で予習するよう心がけてください。

評価
 ・評価は、テスト50%、レポート35%、リアクションペーパー15%で配分します。 ・テストは授業で使用したプリントを持ち込みますが、内容を理解しなければ解けないようになっていきますのでしっかり学習してください。 ・レポートは、授業を振り返って最も関心のあるテーマを選んで書いてもらいますが、「到達目標」を評価基準にしますので、自身の言葉で書いてください。 ・リアクションペーパーは、授業に対する感想、意見、質問等を書いていただきますが、的外れの感想、質問は減点の対象になります。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 【次のステージ】
 法的には、ほぼ「男女平等」の社会になりましたが、女性を取り巻く環境はまだまだ厳しいものがあります。日常生活のなかで、それに気づき、その根源は何なのか、講義を思い出しながら解決方法を考えてみてください。また、母・祖母の経験を通して、沖縄女性の足跡を学ぶことも良いですね。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	世界の歴史Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室(5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は近代ヨーロッパの政治外交史の講義である。しかし、近代のヨーロッパは他地域との関係を通じて発展したので、非ヨーロッパ地域との関係をふまえながら説明する。その際、香辛料、毛織物等の「モノの移動」が与えた影響を基軸として、講義を展開する。また、歴史学は暗記物ではなく「考える学問」なのでワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目標とする。	高校までの暗記による歴史学習とは異なる、当事者として歴史を考える学びを身につけてもらえるような講義とします。例年、登録だけして講義に出席しない人が多くいますので、そうしたことは避けてください。
到達目標	(1) 近代ヨーロッパ政治外交史に関する基本的な知識を習得し、特定の歴史事象について論理的に説明できる。 (2) 過去の出来事を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。 (3) 歴史に関する資料・史料を分析・読解し、その結果を表現できる。 (4) 主体的な意欲に基づき、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	ワークシート提出
	2	「大航海時代」の背景①：中世の西ヨーロッパ世界の特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	3	「大航海時代」の背景②：十字軍は西ヨーロッパ世界にどんな影響を与えたか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	4	「大航海時代」の背景③：「商業の復活」によって、西ヨーロッパ世界はどのように変化したか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	5	「大航海時代」の到来①：イベリア諸国はなぜ、どのように「インド」を目指したか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	6	「大航海時代」の到来②：「大航海時代」の到来は、世界にどんな変化をもたらしたか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	7	スペインとオランダ①：16世紀のスペインとオランダは、どのような関係だったのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	8	スペインとオランダ②：オランダ独立戦争は、どんな戦争だったか？	配付資料の精読、ワークシート提出
9	スペインとオランダ③：オランダ独立戦争は、どのように終わったか？	配付資料の精読、ワークシート提出	
10	オランダの繁栄①：独立戦争を通じて、オランダはどんな国家となったか？	配付資料の精読、ワークシート提出	
11	オランダの繁栄②：オランダの繁栄は、どんな対立を生み出したか？	配付資料の精読、ワークシート提出	
12	イングランドの革命①：17世紀半ばのイングランドは、どんな国家だったのか？	配付資料の精読、ワークシート提出	
13	イングランドの革命②：名誉革命で、英蘭関係はどのように変化したのか？	配付資料の精読、ワークシート提出	
14	茶をめぐるヨーロッパの変化①：茶文化は、ヨーロッパでどのように広がったのか？	配付資料の精読、ワークシート提出	
15	茶をめぐるヨーロッパの変化②：茶文化の流入で、イングランドはどのように変化したか？	配付資料の精読	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用しない。 主な参考資料は下記の通り。 ①佐藤彰一・池上俊一『西ヨーロッパ世界の形成』（中央公論社、1997年）②榎山紘一『ルネサンスと地中海』（中央公論社、1996年）③森田安一『スイス・ベネルクス史』（山川出版社、1998年）④立石博高『スペイン・ポルトガル史』（山川出版社、2000年）⑤長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論社、1997年）など		
学びの手立て	① 履修の心構え 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。予習（配付資料の精読）、復習（ワークシートの提出）にしっかり取り組んでください。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることのできる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。		
評価	到達目標（1）の評価：論述式学期末試験（60%） 到達目標（2）（3）の評価：ワークシートの内容（25%） 到達目標（4）の評価：ワークシートの提出（15%） の総合評価とする。なお、それぞれの評価基準については、初回の講義の時に説明する。 また、出席回数が講義の3分の2に満たない者は試験の評価の対象としない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史をより多面的に理解するために、「世界の歴史Ⅱ」「日本の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」等を履修した上で、「人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」を修得することを勧める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	世界の歴史Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室 (5434)、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、17～18世紀のヨーロッパ史、とくに近代思想の発展とイギリス、フランスの国内政治史との関係について理解することを目的とする。しかし、ヨーロッパ近代思想成立の際にコーヒーハウスが重要な役割を果たしたため、「コーヒーの拡大」をサブテーマとする。また、歴史学は「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目的とする。	高校までの暗記による歴史学習とは異なる、当事者として歴史を考える学びを身につけてもらえるような講義とします。例年、登録だけして講義に出ない人が多くいますので、そうしたことは避けてください。
到達目標	<p>(1) 近代ヨーロッパ社会の歴史を思想的側面から理解し、国内状況と政治思想との関係について論理的に説明できる。</p> <p>(2) 過去の出来事の状態や意義を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。</p> <p>(3) 歴史に関する資料・史料を分析・読解し、その結果を表現できる。</p> <p>(4) 主体的な意欲に基づき、現代的視点に立って、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	ワークシート提出
	2	コーヒーの誕生：コーヒーの実態と起源伝説との間のギャップとは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	3	イスラーム世界におけるコーヒー①：「スーフィズム」とコーヒーには、どんな関係があるか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	4	イスラーム世界におけるコーヒー②：イスラーム世界でコーヒーが普及した理由は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	5	イスラーム世界におけるコーヒー③：コーヒーが世界化した理由は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	6	17世紀イギリスの思想と政治①：17世紀イギリス社会の思想的特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	7	17世紀イギリスの思想と政治②：ホッブズの「社会契約」の特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	8	17世紀イギリスの思想と政治③：ロックの「社会契約」の特徴は何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	9	17世紀イギリスの思想と政治④：名余革命後「コーヒーハウス」はどのように変化したか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	10	フランス社会と文化①：フランスの宮廷文化の特徴とは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	11	フランス社会と文化②：18世紀の都市化が文化に与えた影響とは何か？	配付資料の精読、ワークシート提出
	12	フランス社会と文化③：カフェは文化の拡大にどんな影響を与えたか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	13	啓蒙思想とコーヒー①：啓蒙思想とはどんな思潮なのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
	14	啓蒙思想とコーヒー②：啓蒙思想家は、フランス社会をどのように認識していたのか？	配付資料の精読、ワークシート提出
15	啓蒙思想とコーヒー③：カフェとフランス革命の関係は何か？	配付資料の精読	
16	学期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>特定のテキストは使用しない。</p> <p>主な参考資料は下記の通り。</p> <p>①ユーカーズ『オール・アバウト・コーヒー』（TBSブリタニカ、1995年）②小林章夫『コーヒー・ハウス』（講談社、2000年）④村岡健次・川北稔『イギリス近代史 [改訂版]』（ミネルヴァ書房、2004年）⑤長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論社、1997年）他</p>

学びの手立て	<p>① 履修の心構え</p> <p>単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。予習（配付資料の精読）、復習（ワークシートの提出）にしっかり取り組んでください。</p> <p>② 学びを深めるために</p> <p>講義内容を振り返ることができる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。</p>
--------	---

評価	<p>到達目標（1）の評価：学期末試験（60%）</p> <p>到達目標（2）（3）の評価：ワークシートの内容（25%）</p> <p>到達目標（4）の評価：ワークシートの提出（15%）</p> <p>の総合評価とする。なお、それぞれの評価基準については、初回の講義の時に説明する。</p> <p>また、出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象とはしません。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>歴史をより多面的に理解するために、「世界の歴史Ⅰ」「日本の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」等を履修した上で、「人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」を修得することを勧める。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 一博	1 年	takeda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 講義では、哲学の問題を認識論や存在論にもとづいて考えます。平たく言えば、「見るということはどういうことか」、「見える・触れる・・・ものが存在するとはどういうことか」、「そもそもものが存在するということはどういうことか」などを通じて、人間や世界について考えます。	メッセージ
	到達目標 講義を通じて学生の皆さんに最終的に目指してもらいたいのは、われわれは世界について何を知っているのか/いないのか、人間がこの世界に存在するということはどういう仕方なのか、世界についての真理はどのようなものか、ということについて自分なりの意見や考えをもつということです。それが哲学するということです。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	哲学とは何か、何を考えることか	
	2	レポート作成上の諸注意	
	3	「見る」ということと「存在する」ということ	
	4	色は存在するか？ 熱さは？	
	5	概念枠組みを通して見る・考えるということ	
	6	錯覚はなぜ起こる	
	7	真理の絶対性と相対性	
	8	心とはいかなる存在か	
	9	観念論と唯物論と二元論	
	10	心の働きは脳に基づくということ	
	11	脳の可塑性とは何か	
	12	考えるとはどういうことか	
	13	自由とは何か	
	14	意志するとはどういうことか	
	15	私とは何だろうか	
	16	まとめ、レポート提出	
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストは別に指定しません。授業で紹介する本をできるだけ自分で読んでください。</p>
	<p>学びの手立て 教室での私語は、必ず発言してもらいます。居眠りも、外で行なってもらいます。積極的に質問・意見を出してください。質問・意見することが、授業に参加することです。</p>
	<p>評価 成績は、レポートのみで行ないます。出席は取りません。レポート評価の基準は、A4用紙2枚以上で、2つ以上の文献（紙媒体）を使い、自分でこのことを考えることが哲学することだと思ふテーマを設定し、自分の考え・意見をきちんと論理的に展開できているもの、です。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：「哲学Ⅱ」、「哲学概論」、「人間文化課題研究Ⅰ」、「エコロジーの思想」など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 一博	1年	takeda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この哲学Ⅱでは、哲学の中の行為論や価値論を取り扱います。すなわち、現代社会に生きる人間にとって何が価値ある行為かを、哲学のサイドから考えます。このことを通して、人間が生きることの意味を自分の頭で考えることができるようになると思います。	メッセージ
	到達目標 人間にとって真に価値ある行為とは何かを考えようとする時、それは抽象的な仕方では考えることは不可能です。われわれが現に生きている現実と直に向き合う中でしか、できません。しかし、そのためには、現代社会が資本主義社会であり、市場経済を通じて生産も消費も娯楽も生き甲斐も成立させられている、ということを知らなければなりません。そして、そのことは、われわれが従事する労働とは何か、経済的価値や貨幣とは何か、を知ることでもあります。それらを通じて受講生の皆さんには、生きることの意味や価値を哲学の問題として考えてほしいと思います。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	哲学とは何か、どのように考えることか	
	2	レポート作成上の諸注意	
	3	行為とは何か	
	4	価値とは何か	
	5	われわれの社会とはどのような社会か	
	6	産業化社会のメカニズム	
	7	市場経済の基本的価値	
	8	資本主義とは何か	
	9	働くということはどういうことか	
	10	賃金はどのようにして決まるか	
	11	労働疎外とは何か	
	12	物象化とフェティシズム	
	13	貨幣とは何か	
	14	産業化社会の何が問題か	
	15	「持つ様式」と「する様式」	
	16	まとめ、レポート提出	
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 出席は取りません。教室での私語は、必ず発言してもらいます。居眠りも、外で行なってもらいます。積極的に質問・意見を出してください。授業に参加するということは、質問をすることです。</p>
	<p>評価 成績の評価は、レポートのみで行ないます。レポートの採点基準は、A4用紙2枚以上にわたり、文献（紙媒体）を2つ以上使って、授業に関連した問題を自分なりにテーマ設定し、自分の考え・意見を論理的に説得力をもって展開したもの、です。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：「哲学1」、「人間文化課題研究I」、「エコロジーの思想」など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の歴史 I	前期	土 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-北島 幸三	1年	①授業後に集める出席カードに記入 ②メール (ptt961@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の伝統・文化・宗教観及び日本人の成り立ちやあり方等にスポットを当てながら日本の歴史を見ていく。あわせて他国との比較を行い、それらの検証を通して、日本や日本人が世界の中でどのような特異性を持っているのかを検証していく。	授業アンケート評価：2015年前期4.6（平均4.3）後期4.7（平均4.3）2016年前期4.7（平均4.3）受講者コメント：「最初は普通の歴史の講義だと思っていたが、今まで受けたことのない授業内容で毎時間楽しみだった」「初めてちゃんと起きようと思える講義でした」「授業内容が自分達の価値観や考え方に全て繋がっているのも面白かったし考えの幅も広がった」等。興味があれば受講を。
到達目標	①一見あたり前に見える歴史の事象や文化、物語について多角的・多面的に見ていく視野を講義を通して育てる。結果、今まで目に見えていた部分、理解していたことの中に潜む「あれども見えず」であった部分を意識してみられるようにすること。 ②歴史の講義を通じて、自分が暮らすこの日本という国が講義前よりも好きになること、日本人であることに講義前よりも自信と誇りをもてるようになること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・祝日と日本の歴史	受講の判断
	2	建国と日本の歴史	
	3	神話と日本の歴史	
	4	太陽と日本の歴史	
	5	君が代と日本の歴史	
	6	漢字文化と日本の歴史	
	7	日本人と日本の歴史	
	8	絵文字文化と日本の歴史	
	9	ひらがなと日本の歴史	
	10	日本語と日本の歴史	
	11	和食と日本の歴史	
	12	稲作と日本の歴史	映画「もののけ姫」の事前視聴を。
	13	森と日本の歴史（映画「もののけ姫」の考察から	映画「もののけ姫」の事前視聴を。
	14	むかし話と日本の歴史	
	15	まとめ	試験に向けて対策
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など	[テキスト] ● 必要に応じてプリントを配布する。 ● テキストとなる文献に関しては適宜紹介する。 [参考文献] ● 参考文献については適宜紹介する。	
	学びの手立て	● 授業の最初に毎回グループワークを入れています。グループワークが苦手な人も抵抗少なく入っていけるよう工夫していますが、本当にそのような学習に抵抗がある学生は受講を再考してみてください（苦手だけど興味がある、やってみたいなと思える学生は是非受講してみてください。過去の受講生のアンケートからも「グループワークがよかった」という感想が多々あがっていました）。 ● 毎回の授業終了後にコメントの記入・提出を行っています。質問等もここに記入してもらえば、できる限り次の講義で解説を行っています。受講者の興味や講義の流れ、上がってきた質問の内容に応じて講義順を交換したり、新たな内容に入れ替える講義を行う場合もあります。	
	評価	● 出席 40点 [出席カード (=コメントカード) を毎回提出し、コメントの内容をA3点・ B2点・C1点の三段階で評価。最高3点×15回分=最高40点 (41点以上はすべて40点)] ● 学期末テスト点 40点 ● (発表等) 授業態度点 20点	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	●ひとつの事象を多角的・多面的にとらえる視点を育てることは、今後専門的な教養を深めていくのにも役立つはずで。 ●日本人として日本の歴史をしっかりとした視点で語れることは、今後国際社会に出ていく中でも役立つはずで。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の歴史Ⅱ	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-北島 幸三	1年	①授業後に集める出席カードに記入 ②メール (ptt961@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の伝統・文化・宗教観及び日本人の成り立ちやあり方等にスポットを当てながら日本の歴史を見ていく。あわせて他国との比較を行い、それらの検証を通して、日本や日本人が世界の中でどのようなような特異性を持っているのかを検証していく。	授業アンケート評価：2016前期4.7（平均4.3）。受講者コメント：「歴史を学んでいるというよりは、知識や知恵を学ぶ授業だった。とても良かった」「学生の感想をよく見てくそこから振り返りをしてくれて、とても素晴らしかった。」「全員で授業をしている雰囲気があり、とても良かった」等。興味があれば受講してみてください。
到達目標	①一見あたり前に見える歴史の事象や文化、物語について多角的・多面的に見ていく視野を講義を通して育てる。結果、見えていると思っていた部分、理解していると思っていた中に潜む「あれども見えず」の部分を意識してみられるようにすること。 ②歴史の講義を通じて、自分が暮らすこの日本という国が講義前よりも好きになること、日本人であることに講義前よりも自信と誇りをもてるようになること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・日本刀と日本の歴史	受講の判断
	2	鉄砲伝来と日本の歴史	
	3	信長と日本の歴史	
	4	政教分離と日本の歴史	
	5	宗教と日本の歴史①	
	6	宗教と日本の歴史②	
	7	古事記と日本の歴史①	
	8	古事記と日本の歴史②	
	9	古事記と日本の歴史③	映画「君の名は。」事前視聴を。
	10	神・妖怪と日本の歴史（映画「君の名は。」の考察から）	映画「君の名は。」事前視聴を。
	11	お正月と日本の歴史	
	12	近現代史①（日露戦争と日本の歴史）	
	13	近現代史②（韓国併合と日本の歴史）	
	14	近現代史③（台湾統治と日本の歴史）	
15	まとめ	試験に向けて対策	
16	試験		

テキスト・参考文献・資料など	<p>[テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 必要に応じてプリントを配布する。 ● テキストとなる文献に関しては適宜紹介する。 <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参考文献については適宜紹介する。
----------------	--

学びの手立て	<p>●授業の最初に毎回グループワークを入れています。グループワークが苦手な人も抵抗少なく入っていけるよう工夫していますが、本当にそのような学習に抵抗がある学生は受講を再考してみてください（苦手だけど興味がある、やってみたいなと思える学生は是非受講してみてください。過去の受講生のアンケートからも「グループワークがよかった」という感想が多々あがっていましたので）。●毎回の授業終了後にコメントの記入・提出を行っています。質問等もここに記入してもらえば、できる限り次の講義で解説を行っています。受講者の興味や講義の流れ、質問に応じて講義順を入れ替えたり、新たな内容に入れ替えての講義を行う場合もあります。●前期講座を受講していなくても受講可能（もちろん前期講座受講者の継続受講歓迎）</p>
--------	--

評価	<p>●出席40点 [出席カード(=コメントカード)を毎回提出し、コメントの内容をA3点・B2点・C1点の三段階で評価。最高3点×15回分=最高40点(41点以上はすべて40点)] ●学期末テスト点 40点 ●(発表等)授業態度点 20点</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ひとつの事象を多角的・多面的にとらえる視点を身に付けることは、今後専門的な教養を深めていくのにも役立つはずです。 ●日本人として、日本の歴史や日本人の特性をしっかりとした視点で語れることは、今後国際社会に出ていく中でも役立つはずです
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	水 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	3年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本ゼミでは、芸術学の主要分野である美術史の領域において、美術史の方法論の展開から現代アートまでを概観する。さらに各々の研究課題を設定し、調査し、解釈学や記号論といった視点から作品の特色・意義を学ぶことができる。また、実際に学生自身が創作してみる。	この科目では、学生自身が調査したい作家や作品、作成したい絵画や写真、映画、オブジェなどに取り組んでいく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各芸術領域の史学、特性を説明することができる。 2. 各々の研究分野を設定し、その調査、分析を行うことができる。 3. 研究成果を発表・評価・改善することができる。 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目：自分マップ作成(Who am I ?) 2日目：自分マップ作成(Who am I ?) 3回目：自分マップ発表(Who am I ?) 4回目：研究課題調査・設定 5回目：研究課題調査・設定 6回目：研究課題調査・設定 7回目：研究課題調査・設定 8回目：研究課題中間報告 9回目：研究課題中間報告 10回目：研究課題に関するフィールド調査 11回目：研究課題に関するフィールド調査 12回目：研究課題に関するフィールド調査報告 13回目：研究課題に関するフィールド調査報告 14回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成 15回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成 16回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成・発表
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>美術・芸術学関連参考文献 (映像資料も含む) を適宜配布 西洋美術の読み方 (バトリック・デ・リンク 創元社)、日本の美術 (辻惟雄 東京大学出版会) 自己表現メソッドクリストフ・アンドレ 紀伊國屋書店) など、他多数</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>自分の好きな作家や作品に対して関心を高める。美術館や博物館、ギャラリーなどを積極的に観覧する。</p>
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究・調査に対する取り組み、出席状況 2. 研究・調査内容の完成度 3. 授業・態度、発表状況

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>共通のゼミなので互いに芸術・美術をとおして他学科の学生と交流や刺激が生まれ、全ての芸術関連科目に対して関心が高くなる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	3年	研究室：5-431 メール：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講では、認知（感覚・知覚、認知、記憶、理解、思考等）に関する課題を通し「目に見えない心の働き」について体験的に理解し「自分の心の働き」と「他者の心の働き」を心理学的に捉える力を習得することが目標。前後期の実践的な学びを通して、認知心理学的視点から自己理解、他者理解を深めることが目標。</p>	<p>授業はゼミ形式で、認知心理学の視点から、受講生が心理学的なものの見方や考え方を体験し自分で実践する場面をつくります。自分について、他者について、様々な側面から、見て、考えて、語り合っ理解していきましょう。</p>
到達目標	<p>①前期と後期に紹介される心理学的な知識を理解し、自分の言葉で具体例を挙げて説明することができる。 ②身近な日常生活の出来事とそこで起こる心の動きを心理学的なものの見方・考え方を通して理解し、人に説明することができる。 ③心理学的な視点から、自己理解、他者理解を深めることができる。 ④自発的・意欲的に「心理学の視点から人の心を理解し考える力」を学ぼうとする態度を持てる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・オリエンテーション	授業計画・留意事項の理解
	2	ワーク①「感覚・知覚」を実感する	ワークの実践・課題に取り組む
	3	ワーク①の振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	4	ワーク②「よく見る」とは？	ワークの実践・課題に取り組む
	5	ワーク②の成果発表・振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	6	ワーク③錯覚の不思議・身近な錯覚を探そう	ワークの実践・課題に取り組む
	7	ワーク③身近な錯覚を探そう(発表)	ワークの実践・課題に取り組む
	8	ワーク④記憶の不思議 - 1	ワークの実践・課題に取り組む
	9	ワーク④記憶の不思議 - 2・振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	10	ワーク⑤学ぶこと	ワークの実践・課題に取り組む
	11	ワーク⑤の成果発表・振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	12	ワーク⑥考えること	ワークの実践・課題に取り組む
	13	ワーク⑥の成果発表・振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	14	ワーク⑦映像とこころの働き	ワークの実践・課題に取り組む
	15	ワーク⑦の振り返り	ワークの実践・期末課題まとめ
	16	予備日	
	17	オリエンテーション	授業計画・留意事項の理解
	18	ワーク⑧-1：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	19	ワーク⑧-2：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	20	ワーク⑧-3：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	21	ワーク⑧-4：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	22	ワーク⑧-5：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	23	ワーク⑨-1：ワーキングメモリ	ワークの実践・課題に取り組む
	24	ワーク⑨-2：ワーキングメモリ	ワークの実践・課題に取り組む
	25	ワーク⑨-3：ワーキングメモリ	ワークの実践・課題に取り組む
	26	ワーク⑨-4：ワーキングメモリ	ワークの実践・課題に取り組む
	27	ワーク⑩-1：メタ認知	ワークの実践・課題に取り組む
	28	ワーク⑩-2：メタ認知	ワークの実践・課題に取り組む
29	ワーク⑩-3：メタ認知	ワークの実践・課題に取り組む	
30	ワーク⑩-4：メタ認知	ワークの実践・課題に取り組む	
31	ワーク⑪心の働きの不思議(全体の振り返り)	ワークの実践・期末課題まとめ	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は特に指定しません。必要に応じて適宜、資料を配布します。 参考図書、資料などは授業の中で、適宜紹介していきます。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間文化課題研究ⅠとⅡはすべて同じ内容です。また、今年度の両科目の授業計画の内容は、平成26年度の人間文化課題研究Ⅰ（後期分）と平成28年度の人間文化課題研究Ⅰ（前期分）の内容とほぼ同じです。必ず初回の授業に出席し授業内容等を十分に理解して登録受講してください。 ・ゼミ科目では、受講生は消費者という立場ではなく、話題提供者・知的生産者として能動的に授業に関与することを求めます。授業への積極的な参加（各受講生が自主的に発言や質問などを行う）を求めます。授業への参加態度（質問、発言の質・量なども含む）、各種のワークへの取り組み方などが重視されます。少人数のゼミのため出席状況が特に重視されます。 ・受講生の数や雰囲気など、クラス状況によって、ワークの内容に変更が生じることもあります。
	<p>評価</p> <p>到達目標①、②、③の評価： 授業への参加態度（質問、発言の質・量、各種のワークへの取り組み、振り返りシートの内容）（50%） 課題内容（発表資料、発表の内容、期末課題、振り返り課題などの内容）（35%） 到達目標④の評価：提出物（毎時の振り返りシートの提出、課題の提出）（15%） *上記の評価基準をもとに、前期（100）と後期（100）を評価し、その平均を持って最終評価とする。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅰ、心理学Ⅱを合わせて履修するとよい。共通科目を幅広く履修し、心理学的なものの方・考え方と他の学問の視点を比較しながら人間、文化についてさらに考えを深めていくとよい。 次のステージ：この授業で身につけた「心理学的なものの方・考え方」や「自己理解、他者理解、対人関係・自己表現スキル」は自分の体験と結びつくことで深く理解できる。日々の生活の中で実践していくとよい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	木 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 一博	3年	takeda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は、ゼミ形式で現代社会のさまざまな問題を哲学から考えることをねらいとしています。講義形式と違って、学生の皆さんの日頃の問題意識を中心にして、ディスカッションを通じて進めていきます。ディスカッションを通じて考えることによって、他の人と自分の考えがどう違うのかを知り、より客観的に問題を深めることができます。	メッセージ この授業では、堅苦しい哲学の話ではなく、日頃考えたり悩んでいたたりする、人間関係、恋愛、就職、生き甲斐、人間ってなんだ？など、何でも取り上げて話し合います。映画観賞も取り入れます。その際、特定の考え方にこだわるより、広くいろいろな面から問題を考えていくことに重点を置きます。気軽に参加してください。
	到達目標 この授業を通じて獲得してほしいことは、とにかくいろいろな問題を自分の頭で考えようとする習慣を身に付けることです。現代のわが国は、とかく内向き志向で、自分の意見を表明しようとしないうころか、問題を深く考えようとしないうで、上の人や偉い人の言うことを黙って受け入れる風潮があります。しかし、それでは社会のさまざまな問題は解決しませんし、自分自身の生き方も息苦しいものになってしまいます。それを打ち破るきっかけにこの授業がなれば、と期待します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講師および受講生の自己紹介。授業の特徴の説明	
	2	前期授業の計画を話し合う	
	3	本や雑誌・新聞記事を読みながらディスカッション	
	4	同上	
	5	映画を観賞した後、ディスカッション	
	6	同上	
	7	厚生会館3Fでお茶を飲みながらディスカッション	
	8		
	9	以下、上記サイクルを適宜、繰り返す	
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15	前期のまとめ、受講生の感想	
	16	後期の取り組み計画を話し合う	
	17	全体で取り組むテーマを2つ決め、分担を作成	
	18	1回目のテーマ	
	19	発表とディスカッション	
	20	同上	
	21	同上	
	22	同上	
	23	同上	
	24	中間ブレイク：厚生会館3Fでお茶andディスカッション	
	25	2回目のテーマ	
	26	発表とディスカッション	
	27	同上	
	28	同上	
29	同上		
30	同上		
31	ゼミを振り返る、各自の意見発表		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しません。授業で取り上げる文献や資料は、受講生からの提案で決めます。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 授業はゼミ形式なので、受講生の自発的で自主的な提案・発言が重要です。日頃から本や新聞・雑誌をよく読み、社会や人間のことを考える習慣を身に付けることが大切です。</p>
	<p>評価 評価は、受講生の授業への参加度、取り組みや発言の積極性によって決めます。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：「哲学Ⅰ」、「哲学Ⅱ」、「哲学概論」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究 I	通年	木 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉浜 忍	3年	sinobu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖繩の歴史、とくに沖繩戦を含む沖繩近現代史を中心に学ぶ。学びの方法は、基本的・基礎的な知識を踏まえた上で、自ら課題（テーマ）を設定し、調査研究して発表する。課題は、各人が生まれ育った地域、あるいは生活している地域の歴史に限定する。調査は体験の聞き取りやフィールドワークが中心。歴史は現場にあることを認識することで、歴史のリアリティを学ぶ。	メッセージ 自分の足と頭で地域の歴史(沖繩戦)を掘り起こすことで歴史認識を確かなものにする。履修者との話しあいによってはフィールドワーク多く取り入れることもある。
	到達目標 身近なところにある歴史(沖繩戦)から一般的・普遍的なつながりを知ることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス	
	2	沖繩近現代史の学習(沖繩戦を中心に)	プリントの復習
	3	沖繩近現代史の学習(地域の沖繩戦を中心に)	同上
	4	聞き取りする地域の学習	同上
	5	フィールドワーク	プリントで再確認
	6	文字起こしの仕方や記録の方法	プリントの復習
	7	各人が文字起こしと事実の確認	関連文献との照合
	8	各人が文字起こしと事実の確認	同上
	9	体験記録の発表と検証①	記録の再確認
	10	体験記録の発表と検証②	同上
	11	体験記録の発表と検証③	同上
	12	体験記録の発表と検証④	同上
	13	体験記録の発表と検証⑤	同上
	14	体験記録の発表と検証⑥	同上
	15	フィールドワーク	プリントで再確認
	16	前期のまとめ	
	17	後期ガイダンス	
	18	聞き取り調査地域の学習①	プリントの復習
	19	聞き取り調査地域の学習②	同上
	20	フィールドワーク	プリントの再確認
	21	聞き取りの視点と方法の学習	プリントの復習
	22	聞き取り調査①	録音のチェック
	23	聞き取り調査②	同上
	24	体験記録の発表と検証①	記録の再確認
	25	体験記録の発表と検証②	同上
	26	体験記録の発表と検証③	同上
	27	体験記録の発表と検証④	同上
	28	体験記録の発表と検証⑤	同上
	29	体験記録の発表と検証⑥	同上
30	フィールドワーク	プリントの確認	
31	後期のまとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストは適宜準備する。 参考文献は適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 毎回出席確認する。無断欠席はしないこと。</p>
	<p>評価 ①出席状況 20点 ②取り組みの姿勢や態度・意欲 20点 ③文字起こしの内容・正確性、発表の仕方 30点 ④聞き取り調査と記録の内容・正確性、発表の仕方 30点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 沖縄の多様性への理解がひろがり、かつ地域に根ざすことの重要性に対する認識をもつきっかけになる。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	火5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	4年	研究室：5-431 メール：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講では、認知（感覚・知覚、認知、記憶、理解、思考等）に関する課題を通し「目に見えない心の働き」について体験的に理解し「自分の心の働き」と「他者の心の働き」を心理学的に捉える力を習得することが目標。前後期の実践的な学びを通して、認知心理学的視点から自己理解、他者理解を深めることが目標。</p>	<p>授業はゼミ形式で、認知心理学の視点から、受講生が心理学的なものの見方や考え方を体験し自分で実践する場面をつくります。自分について、他者について、様々な側面から、見て、考えて、語り合っ理解していきましょう。</p>
到達目標	<p>①前期と後期に紹介される心理学的な知識を理解し、自分の言葉で具体例を挙げて説明することができる。 ②身近な日常生活の出来事とそこで起こる心の動きを心理学的なものの方・考え方を通して理解し、人に説明することができる。 ③心理学的な視点から、自己理解、他者理解を深めることができる。 ④自発的・意欲的に「心理学の視点から人の心を理解し考える力」を学ぼうとする態度を持てる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	履修登録・オリエンテーション	授業計画・留意事項の理解
	2	ワーク①「感覚・知覚」を実感する	ワークの実践・課題に取り組む
	3	ワーク①の振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	4	ワーク②「よく見る」とは？	ワークの実践・課題に取り組む
	5	ワーク②の成果発表・振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	6	ワーク③錯覚の不思議・身近な錯覚を探そう	ワークの実践・課題に取り組む
	7	ワーク③身近な錯覚を探そう(発表)	ワークの実践・課題に取り組む
	8	ワーク④記憶の不思議 - 1	ワークの実践・課題に取り組む
	9	ワーク④記憶の不思議 - 2・振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	10	ワーク⑤学ぶこと	ワークの実践・課題に取り組む
	11	ワーク⑤の成果発表・振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	12	ワーク⑥考えること	ワークの実践・課題に取り組む
	13	ワーク⑥の成果発表・振り返り	ワークの実践・課題に取り組む
	14	ワーク⑦映像とこころの働き	ワークの実践・課題に取り組む
	15	ワーク⑦の振り返り	ワークの実践・期末課題まとめ
	16	予備日	
	17	オリエンテーション	授業計画・留意事項の理解
	18	ワーク⑧-1：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	19	ワーク⑧-2：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	20	ワーク⑧-3：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	21	ワーク⑧-4：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	22	ワーク⑧-5：脳とこころの関係	ワークの実践・課題に取り組む
	23	ワーク⑨-1：ワーキングメモリ	ワークの実践・課題に取り組む
	24	ワーク⑨-2：ワーキングメモリ	ワークの実践・課題に取り組む
	25	ワーク⑨-3：ワーキングメモリ	ワークの実践・課題に取り組む
	26	ワーク⑨-4：ワーキングメモリ	ワークの実践・課題に取り組む
	27	ワーク⑩-1：メタ認知	ワークの実践・課題に取り組む
	28	ワーク⑩-2：メタ認知	ワークの実践・課題に取り組む
	29	ワーク⑩-3：メタ認知	ワークの実践・課題に取り組む
30	ワーク⑩-4：メタ認知	ワークの実践・課題に取り組む	
31	ワーク⑪心の働きの不思議(全体の振り返り)	ワークの実践・期末課題まとめ	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は特に指定しません。必要に応じて適宜、資料を配布します。参考図書、資料などは授業の中で、適宜紹介していきます。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間文化課題研究ⅠとⅡはすべて同じ内容です。また、今年度の両科目の授業計画の内容は、平成26年度の人間文化課題研究Ⅰ（後期分）と平成28年度の人間文化課題研究Ⅰ（前期分）の内容とほぼ同じです。必ず初回の授業に出席し授業内容等を十分に理解して登録受講してください。 ・ゼミ科目では、受講生は消費者という立場ではなく、話題提供者・知的生産者として能動的に授業に関与することを求めます。授業への積極的な参加（各受講生が自主的に発言や質問などを行う）を求めます。授業への参加態度（質問、発言の質・量なども含む）、各種のワークへの取り組み方などが重視されます。 ・少人数のゼミのため出席状況が特に重視されます。 ・受講生の数や雰囲気など、クラスの状況によって、ワークの内容に変更が生じることもあります。
	<p>評価</p> <p>到達目標①、②、③の評価： 授業への参加態度（質問、発言の質・量、各種のワークへの取り組み、振り返りシートの内容）（50%） 課題内容（発表資料、発表の内容、期末課題、振り返り課題などの内容）（35%） 到達目標④の評価：提出物（毎時の振り返りシートの提出、課題の提出）（15%） ＊上記の評価基準をもとに、前期（100）と後期（100）を評価し、その平均を持って最終評価とする。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学Ⅰ、心理学Ⅱを合わせて履修するとよい。共通科目を幅広く履修し、心理学的なものの方・考え方と他の学問の視点を比較しながら人間、文化についてさらに考えを深めていくとよい。 次のステージ：この授業で身につけた「心理学的なものの方・考え方」や「自己理解、他者理解、対人関係・自己表現スキル」は自分の体験と結びつくことで深く理解できる。日々の生活の中で実践していくとよい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 一博	4年	takeda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は、ゼミ形式で現代社会のさまざまな問題を哲学から考えることをねらいとしています。講義形式と違って、学生の皆さんの日頃の問題意識を中心にして、ディスカッションを通じて進めていきます。ディスカッションを通じて考えることによって、他の人と自分の考えがどう違うのかを知り、より客観的に問題を深めることができます。	メッセージ この授業では、堅苦しい哲学の話ではなく、日頃考えたり悩んでいたたりする、人間関係、恋愛、就職、生き甲斐、人間ってなんだ？など、何でも取り上げて話し合います。映画観賞も取り入れます。その際、特定の考え方にこだわるより、広くいろいろな面から問題を考えていくことに重点を置きます。気軽に参加してください。
	到達目標 この授業を通じて獲得してほしいことは、とにかくいろいろな問題を自分の頭で考えようとする習慣を身に付けることです。現代のわが国は、とかく内向き志向で、自分の意見を表明しようとしないうころか、問題を深く考えようとしないうで、上の人や偉い人の言うことを黙って受け入れる風潮があります。しかし、それでは社会のさまざまな問題は解決しませんし、自分自身の生き方も息苦しいものになってしまいます。それを打ち破るきっかけにこの授業がなれば、と期待します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講師および受講生の自己紹介。授業の特徴の説明	
	2	前期授業の計画を話し合う	
	3	本や雑誌・新聞記事を読みながらディスカッション	
	4	同上	
	5	映画を観賞した後、ディスカッション	
	6	同上	
	7	厚生会館3Fでお茶を飲みながらディスカッション	
	8		
	9	以下、上記サイクルを適宜、繰り返す	
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15	前期のまとめ、受講生の感想	
	16	後期の取り組み計画を話し合う	
	17	全体で取り組むテーマを2つ決め、分担を作成	
	18	1回目のテーマ	
	19	発表とディスカッション	
	20	同上	
	21	同上	
	22	同上	
	23	同上	
	24	中間ブレイク：厚生会館3Fでお茶andディスカッション	
	25	2回目のテーマ	
	26	発表とディスカッション	
	27	同上	
	28	同上	
29	同上		
30	同上		
31	ゼミを振り返る、各自の意見発表		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しません。授業で取り上げる文献や資料は、受講生からの提案で決めます。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 授業はゼミ形式なので、受講生の自発的で自主的な提案・発言が重要です。日頃から本や新聞・雑誌をよく読み、社会や人間のことを考える習慣を身に付けることが大切です。</p>
	<p>評価 評価は、受講生の授業への参加度、取り組みや発言の積極性によって決めます。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：「哲学Ⅰ」、「哲学Ⅱ」、「哲学概論」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	木3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉浜 忍	4年	sinobu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の歴史、とくに沖縄戦を含む沖縄近現代史を中心に学ぶ。学びの方法は、基本的・基礎的な知識を踏まえた上で、自ら課題(テーマ)を設定し、調査研究して発表する。調査研究は、各人が生まれ育った地域、あるいは生活している地域に限定し、体験者の聞き取りやフィールドワークを中心にする。歴史は現場にあることを認識することで、歴史のリアリティを学ぶ。	メッセージ 自分の足と頭で地域の歴史(沖縄戦)を掘り起こすことで歴史認識を確かなものとする。履修者との話しあいによってはフィールドワークを多く取り入れることもある。
	到達目標 身近なところにある歴史(沖縄戦)から一般的・普遍的なつながりを知ることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス	
	2	沖縄近現代史の学習(沖縄戦を中心に)	プリントの復習
	3	沖縄近現代史の学習(地域の° 沖縄戦を中心に)	同上
	4	聞き取り調査する域の学習	同上
	5	フィールドワーク	プリントで再確認
	6	文字起こしの方法や記録の仕方	プリントの復習
	7	各人が文字起こしと事実の確認	関連文献との照合
	8	各人が文字起こしと事実の確認	同上
	9	体験記録の発表と検証①	記録の再確認、修正
	10	体験記録の発表と検証②	同上
	11	経験記録の発表と検証③	同上
	12	体験記録の発表と検証④	同上
	13	体験記録の発表と検証⑤	同上
	14	体験記録の発表と検証⑥	同上
	15	フィールドワーク	プリントで再確認
	16	前期のまとめ	
	17	後期ガイダンス	
	18	聞き取り調査地域の学習①	プリントの復習
	19	聞き取り調査地域の学習②	同上
	20	フィールドワーク	プリントで再確認
	21	聞き取り調査の視点と方法の学習	プリントの復習
	22	聞き取り調査①	録音のチェック
	23	聞き取り調査②	同上
	24	体験記録の発表と検証①	記録の再確認、修正
	25	体験記録の発表と検証②	同上
	26	体験記録の発表と検証③	同上
	27	体験記録の発表と検証④	同上
	28	体験記録の発表と検証⑤	同上
29	体験記録の発表と検証⑥	同上	
30	フィールドワーク	プリントで再確認	
31	後期のまとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは適宜、自作のプリントを準備する。 参考文献は適宜、授業で紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回出席確認する。 無断欠席をしないこと。</p>
	<p>評価</p> <p>①出席状況 20点 ②取り組みの姿勢や態度・意欲 20点 ③文字起こしの内容・正確性・発表の仕方 30点 ④聞き取り調査と記録の内容・正確性・発表の仕方 30点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ・関連科目 沖縄戦の多様性への理解がひろがり、かつ地域に根ざすことの重要性に対する認識をもつきっかけになる。</p>

※ポリシーとの関連性 共通科目であり、一般教養として芸術や美術に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	水2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	4年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	後期のゼミでは、前期に行った調査・研究を発表し、最終的に展示できるまでの完成度を上げていく。作品制作も同様に前期で創作した作品を発表・展示をすること。	この科目では、学生自身が調査したい作家や作品、作成したい絵画や写真、映画、オブジェなどに取り組み、発表する。

学びの準備	到達目標
	1. 各芸術領域の史学、特性を説明することができる。 2. 各々の研究分野を設定し、その調査、分析、発表することができる。 3. 研究成果を発表・評価・改善することができる。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1回目：自分マップ作成(Who am I ?) 2回目：自分マップ作成(Who am I ?) 3回目：自分マップ発表(Who am I ?) 4回目：研究課題調査・設定 5回目：研究課題調査・設定 6回目：研究課題調査・設定 7回目：研究課題調査・設定 8回目：研究課題中間報告 9回目：研究課題中間報告 10回目：研究課題に関するフィールド調査 11回目：研究課題に関するフィールド調査 12回目：研究課題に関するフィールド調査報告 13回目：研究課題に関するフィールド調査報告 14回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成 15回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成 16回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成・発表</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	美術・芸術学関連参考文献 (映像資料も含む) を適宜配布 西洋美術の読み方 (パトリック・デ・リンク 創元社)、日本の美術 (辻惟雄 東京大学出版会) 自己表現メソッドクリストフ・アンドレ 紀伊國屋書店) など、他多数

学びの実践	学びの手立て
	自分の好きな作家や作品に対して関心を高める。美術館や博物館、ギャラリーなどを積極的に観覧する。

学びの実践	評価
	1. 研究・調査に対する取り組み、出席状況 2. 研究・調査内容の完成度 3. 授業・態度、発表状況

学びの継続	次のステージ・関連科目
	共通のゼミなので互いに芸術・美術をとおして他学科の学生と交流や刺激が生まれ、全ての芸術関連科目に対して関心が高くなる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フェミニズム思想	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい フェミニズムがめざすのは、支配をなくし、自由にあるがままの自分になること——正義を愛し、平和な人生を生きられるように、わたしたちを解き放つことである（ベル・フックス）。本講義では自明とされる男らしさ・女らしさを疑うことにより、男性と女性の息苦しさから解放されることをねらいとする。	メッセージ フェミニズムはみんなのもの！
	到達目標 フェミニズム思想を学ぶことによって、女であること・男であること・そのいずれでもないことによる呪縛から解放されると同時に、その人が大切に思う何ものも失わずに——女であることも、男であることも、そしてどちらでもないことも、すべてを含めて——存在しつづける思考を身につけることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、フェミニズム思想の概説	配布資料を熟読すること
	2	わたしたちはどこにいるのか	配布資料を熟読すること
	3	たえまない意識の変革を	配布資料を熟読すること
	4	シスターフッドは今でも強い	配布資料を熟読すること
	5	私たちのからだ、私たち自身	配布資料を熟読すること
	6	内面の美、外面の美	配布資料を熟読すること
	7	フェミニズムの階級闘争	配布資料を熟読すること
	8	働く女性たち	配布資料を熟読すること
9	人種とジェンダー	配布資料を熟読すること	
10	暴力をなくす	配布資料を熟読すること	
11	フェミニズムの考える男らしさ	配布資料を熟読すること	
12	家族とコミュニティ	配布資料を熟読すること	
13	性の政治学	配布資料を熟読すること	
14	マリアからイヴへ	配布資料を熟読すること	
15	未来を開く	配布資料を熟読すること	
16	課題	配布資料を熟読すること	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。参考文献：ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの』（新水社）		
	学びの手立て 毎回の受講の積み重ねが力になります。		
	評価 毎回のリアクション・ペーパーで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目、次のステージ：「女性と文化」「ジェンダー論」「哲学」「歴史」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	1年	k.okano@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は文学を入り口として異文化を知ることがねらいです。ドイツ語圏の文学を主に扱います。「文学Ⅰ」は、文学とは何かという問いからスタートして、中世から近代まで、その時々の特徴的な作品に光をあてて紹介します。背景となる文化、社会、歴史と併せて作品をみてゆきましょう。	メッセージ 作品が提示する生き方や考え方に共感できるかもしれません。あるいは、まったく異なる考え方であうかも知れません。文学を通じて、さまざまな生き方、考え方にふれてください。そしてじぶんで考えてみましょう。講義形式の授業ですが、コメントやリアクション・ペーパーの提出を求めています。授業を聴くだけでなく自分なりの考えをまとめて言語化してください。
	到達目標 講義を通じて次のことを学ぶことができます。 ①ドイツ語圏の文学について具体的な作品を挙げ、それを説明することができる。 ②作品を通じてさまざまな生き方や考え方を学び、それに対するじぶんの見解を述べるすることができる。 ③文学を通じてドイツ語圏の文化、社会、歴史を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	文学とはなにか①	
	3	文学とはなにか②	
	4	ドイツ語圏の誕生	参考文献を読む
	5	礼節を学ぶ—宮廷叙事詩—：ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハ『パルチヴァール』	参考文献を読む
	6	愛をうたう—ミンネザンガー—：ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデ「ぼだい樹の木かげ	参考文献を読む
	7	盛者必衰—英雄叙事詩—：『ニーベルンゲンの歌』	参考文献を読む
	8	盛者必衰—英雄叙事詩—：『ニーベルンゲンの歌』	参考文献を読む
	9	「ことば」に立ち止まる—宗教改革—：ルター「キリスト者の自由」	参考文献を読む
	10	近世の笑い—「民衆本」の世界—：『ティル・オイレンシュペーゲルの愉快な物語』	参考文献を読む
	11	文学と笑いについて—風刺とユーモア—	参考文献を読む
	12	女性と文学—啓蒙の世紀—：レッシング『エミーリア・ガロッチィ』	参考文献を読む
	13	シュトゥルム・ウント・ドラング：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』	参考文献を読む
	14	シュトゥルム・ウント・ドラング：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』	参考文献を読む
	15	まとめ	試験準備
	16	学期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。 参考文献：手塚富雄，神品芳夫著『増補 ドイツ文学案内』（岩波文庫，1993，ISBN：978-4003500033）。 資料：授業時に随時紹介します。		
	学びの手立て 次のことを実践してみてください。 ①参考文献に挙げた『ドイツ文学案内』を読む。同書は簡単に入手でき、初学者にもやさしいロングセラーです。授業と並行して読むと、ドイツ語圏についてより深く理解できます。 ②作品を読む。文学を学ぶには自分で作品を読むことがいちばん大切です。授業で紹介した作品は難解なものではありません。ぜひ手に取って読んで下さい。		
	評価 平常点（授業参加度，リアクション・ペーパー）40%，学期末試験60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：文学Ⅱ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	1年	k.okano@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は文学を入口として異文化を知ることがねらいです。ドイツ語圏の文学を主に扱います。「文学Ⅱ」は近代から現代まで、その時々の特徴的な作品に光をあてて紹介します。背景となる文化、社会、歴史と併せて作品をみてゆきましょう。	メッセージ 作品が提示する生き方や考え方に共感できるかもしれません。あるいは、まったく異なる考え方にであうかも知れません。文学を通じて、さまざまな生き方、考え方にふれてください。そしてじぶんで考えてみましょう。講義形式の授業ですが、コメントやリアクション・ペーパーの提出を求めています。授業を聴くだけでなく、自分なりの考えをまとめて言語化してください。
	到達目標 講義を通じて次のことを学ぶことができます。 ①ドイツ語圏の文学について具体的な作品を挙げ、それを説明することができる。 ②作品を通じてさまざまな生き方や考え方を学び、それに対するじぶんの見解を述べるすることができる。 ③文学を通じてドイツ語圏の文化、社会、歴史を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	ドイツ人とユダヤ人—文学における他者—：グリム童話「いばらの中のユダヤ人」	参考文献を読む
3	ドイツ人とユダヤ人—共生の夢—：レッシング『賢者ナータン』	参考文献を読む	
4	調和を学ぶ—教養小説—：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』	参考文献を読む	
5	人生の探求—ゲーテの世界—：『ファウスト』	参考文献を読む	
6	時よ留まれ！—ゲーテの世界—：『ファウスト』	参考文献を読む	
7	理想を求めて—革命と変動の中で—：シラー『ヴィルヘルム・テル』	参考文献を読む	
8	影のない男がなくなったもの—ロマン主義—：シャミッソー『影を失くした男』	参考文献を読む	
9	不気味なもの—の正体—幻想文学—：E・T・A・ホフマン『砂男』	参考文献を読む	
10	なじかは知らねど心わびて—ライン河伝説の系譜—：ハイネ「ローレライ」	参考文献を読む	
11	しあわせを考える—児童文学をよむ—：ケストナー『点子ちゃんとアントン』	参考文献を読む	
12	しあわせを考える—文学と映画—：ケストナー『点子ちゃんとアントン』	レビューを書く	
13	ある朝のできごと—非日常的な日常—：カフカ『変身』	参考文献を読む	
14	自分自身への道—大衆時代の文学—：ヘッセ『데미アン』	参考文献を読む	
15	まとめ	試験準備	
16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。 参考文献：手塚富雄，神品芳夫著『増補 ドイツ文学案内』（岩波文庫，1993，ISBN：978-4003500033）。 資料：授業時に随時紹介します。		
	学びの手立て 次のことを実践してみてください。 ①参考文献に挙げた『ドイツ文学案内』を読む。同書は簡単に入手でき、初学者にもやさしいロングセラーです。授業と並行して読むと、ドイツ語圏についてより深く理解できます。 ②作品を読む。文学を学ぶには自分で作品を読むことがいっばん大切です。授業で紹介した作品は難解なものではありません。ぜひ手に取って読んで下さい。		
	評価 平常点（出席，リアクション・ペーパー，授業参加度）40%，学期末試験60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和と文化	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-吉川 由紀	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 人権、平和、戦争などをテーマに、多くの人々の人生に触れながら、他者の語りに耳を傾け、理解し、自身の言葉で伝える力を養います。	メッセージ 簡単には解決方法や答えが見いだせない、この社会が抱える問題を、さまざまな切り口から考えてみませんか。講義では、現場で活動している人の報告や体験者の、生の証言を聴く時間ももちます。大学生のいまこそ、考える力を一緒に培いましょう。
	到達目標 レポートは、オーラル・ヒストリー（他者の経験と認識を聴き、記憶を記録する作業）の実践です。語りを聴く力、それを理解しようとする力が鍛えられるとともに、他者を尊重しようとする力や想像力、また第三者に伝える力を育みます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクションー隣で生きている人の「歴史」に耳を傾ける	レポートテーマと証言者の決定
	2	沖縄戦体験者の声を聴く、記録する	//
	3	慰霊塔／慰霊碑に聴く	//
	4	場所に聴くー戦争遺跡を通して	聴き取り項目の検討
	5	土に聴くー遺骨収集の現場から	//
	6	対馬丸事件に学ぶ① 事件を忘れないために	//
	7	対馬丸事件に学ぶ② 海の戦争の実態	聴き取り、文字化、再聴き取り
	8	対馬丸事件に学ぶ③ 体験者の証言を聴く	//
	9	ハンセン病問題の歴史を糧に① 終生絶対隔離とは何か	//
	10	ハンセン病問題の歴史を糧に② 沖縄のハンセン病差別被害	//
	11	ハンセン病問題の歴史を糧に③ 差別と向き合って生きる	//
	12	ハンセン病問題の歴史を糧に④ 回復者の証言を聴く	//
	13	何をどのように伝えるかー語りだす遺品	まとめ
	14	加害と被害を抱えて生きるー満州移民の歴史とは	//
15	まとめー実践から見えてくるもの		
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しません。毎回レジュメを配布します。DVDやパワーポイントを用いて授業をすすめます。 【参考文献】 『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地博編、法律文化社、2005年 『新版ライブヒストリーを学ぶ人のために』谷富夫編、世界思想社、2008年 その他は、講義の中で適宜紹介します。		
	学びの手立て 県内外・国内外を問わず、戦争・平和・人権問題を扱った資料館・博物館を積極的に見学すると、理解が深まります。また、証言集など聴き書きをまとめた文献に目を通すことも有意義です。		
	評価 授業への参加状況（出席、理解・疑問点の整理）とレポートを総合して行います。 10回以上の出席がないと、レポートは採点しません。 レポートのテーマ及び執筆要綱は第1回目の講義で発表するので注意してください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	倫理学 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	1年	講義時間内が望ましいのですが、義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は大学で学びはじめたばかりの人を対象に、倫理学の概略を伝えることを目的としています。倫理学とは道徳の学問ですが、正しいとか善いとかは単なる感情の問題だと思ふ人も多いと思います。しかし何が正しいことかについては先人も多く頭を悩ませてきました。その一端を教室では紹介します。これを学ぶことが受講者諸君が本格的に考えるきっかけになることを望んでいます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理という語の本来の意味から、道徳的であるとはどういうことかまでを理解する。 ・ 現代のさまざまな倫理的立場の違いを知り、自分でも説明できるようになる。 ・ 倫理的なことがらについて、自分自身のしっかりした考えを持てるようにする。 ・ 広く好奇心を持って、いままで知らなかったことに挑戦する心構えを身につける。 	<p>予備知識は特に必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲は期待していません。これから学ぶ人にとって、知らないということは何も悪いことではありません。これから知れば良いからです。ただ、自分が判るか判らないかを考えないのは良くありません。新鮮な気持ちで講義に取り組み、自分が判っているかどうかをつねに考え、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り	シラバスを読んでくるように。
	2	倫理という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
	3	倫理という語の成り立ちについても考える。	事典類にあたってみるように。
	4	人文学を学ぶことの意義について考える。	学生同士での討議を勧めたい。
	5	ソクラテスとプラトンの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	6	アリストテレスの倫理学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	7	カントの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	8	功利主義の思想について考える	身近な事例で考えてみる。
	9	カント説と功利主義の対立点を考える。	講義後の復習をするように。
	10	正義とは何かを考える。	身近な事例で考えてみる。
	11	自由について考えてみる。	身近な事例で考えてみる。
	12	徳について考える。	身近な事例で考えてみる。
	13	共同体の意義について考える。	自分の立場にあてはめてみる。
	14	あらためて正義について考える。	講義後の復習をするように。
15	現代社会の倫理問題をあらためて考える。	講義後の復習をするように。	
16	期末考査。	自分の理解を確認する。	

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典を引く習慣を身につけるように。

学びの手立て

教養科目ですので初学者を対象としています。新鮮な気持ちで取り組んでほしいと思います。こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように努めてほしいと考えています。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。

評価

最終回に試験をして、その内容によって評価します。平常点をどう評価するかは受講者の人数によります(大人数だと全員の様子を把握できないため)が、できれば積極的に参加する人を高く評価したいと考えています。初回に評価基準について諸君の意見も聞いて決めます。意見があれば遠慮なく言ってください。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので、出席それ自体を特に高く評価することはありません。

学びの継続

次のステージ・関連科目

大学で学ぶ学問は直接すぐに役立つものではありません。しかしそこには先人から受け継がれたたくさんの宝が埋もれ隠されています。学問に触れて貴重なものを得られるか退屈だけでしかないかは皆さん次第です。本講座もこのあと皆さんが学問の楽しさを得るための一助となりたいと心から願っています。

科目基本情報	科目名	倫理学Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-大城 信哉	後期	木3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	講義時間内が望ましいのですが、義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	本講座は大学で学び始めたばかりの人たちに（すでに半年は学んでいるわけですが）、特に現代の応用倫理学の一部を具体的に伝えることを目的としています。多くの人々が一緒に生きる現実社会では、何が正しいかの合意を作る必要があります。その努力の一端を紹介いたします。これを学ぶことが受講者諸君が本格的に考えるきっかけになるよう望んでいます。	メッセージ	予備知識は特に必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲は期待していません。これから学ぶ人にとって、知らないということは何も悪いことではありません。これから知れば良いからです。ただ、自分が判るか判らないかを考えないのは良くありません。新鮮な気持ちで講義に取り組み、自分が判っているかどうかをつねに考え、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の倫理的問題にどのようなものがあるかを知り、自分でも考えられるようになる。 ・現代の具体的な問題についてのさまざまな倫理的立場の違いを説明できるようになる。 ・倫理的なことがらについて、自分自身のしっかりした考えを持てるようにする。 ・広く好奇心を持って、いままで知らなかったことに挑戦する心構えを身につける。 		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り	シラバスを読んでくるように。
	2	倫理という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
	3	自由と功利性について考える。	講義後の復習をするように。
	4	共同性と社会習慣について考える。	講義後の復習をするように。
	5	医療と福祉Ⅰ 自己決定について。	自分の考えを作ってみる。
	6	医療と福祉Ⅱ インフォームド・コンセント。	自分の考えを作ってみる。
	7	医療と福祉Ⅲ パターナリズム。	自分の考えを作ってみる。
	8	環境と人間Ⅰ 世代間の問題。	自分の考えを作ってみる。
	9	環境と人間Ⅱ 自然と人間。	自分の考えを作ってみる。
	10	環境と人間Ⅲ 物言わぬものら。	自分の考えを作ってみる。
	11	教育と社会Ⅰ 教育は何のためにあるのか。	自分の考えを作ってみる。
	12	教育と社会Ⅱ 誰が何を教育すべきか。	自分の考えを作ってみる。
	13	国家と社会Ⅰ 刑罰の意味。	自分の考えを作ってみる。
	14	国家と社会Ⅱ 戦争と平和。	自分の考えを作ってみる。
15	国家と社会Ⅲ 理想と現実。	自分の考えを作ってみる。	
16	期末考査。	自分の理解を確認する。	

テキスト・参考文献・資料など
 教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典を引く習慣を身につけるように。

学びの手立て
 教養科目ですので初学者を対象としています。新鮮な気持ちで取り組んでほしいと思います。こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように努めてほしいと考えています。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。

評価
 最終回に試験をして、その内容によって評価します。平常点をどう評価するかは受講者の人数によります（大人数だと全員の様子を把握できないため）が、できれば積極的に参加する人を高く評価したいと考えています。初回に評価基準について諸君の意見も聞いて決めます。意見があれば遠慮なく言ってください。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので、出席それ自体を特に高く評価することはありません

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 大学で学ぶ学問は直接すぐに役立つものではありません。しかしそこには先人から受け継がれたたくさんの宝が埋もれ隠されています。学問に触れて貴重なものを得られるか退屈だけでしかないかは皆さん次第です。本講座もこのあと皆さんが学問の楽しさを得るための一助となりたくと心から願っています。